2017年中間選挙とアルゼンチン政治におけるその意味

菊池 啓一

はじめに

ラテンアメリカにおける左派の退潮を示す事例として注目を浴びた2015年のマクリ政権の誕生であるが、同政権は現代アルゼンチン政治史からみても興味深い特徴を有している。まず、マクリ大統領は決選投票を経てその座についたアルゼンチン史上唯一の大統領であり[1]、また、1983年の民主化以降では初めて正義党（ペロニスタ党）にも急進党にも属していない大統領である。さらに、マクリ政権は、短命に終わったデ・ラ・ルア政権（アリアンサ政権、1999～2001年）に続く2例目の連立政権である。

これらの特徴から、発足当初はマクリ政権の安定性に懐疑的な見方も少なくなかった。特に、民主化以降の非正義党政権ではアルフォンシン大統領（急進党、1983～89年在職）もデ・ラ・ルア大統領（急進党、1999～2001年在職）も任期満了前の退陣を余儀なくされたことから、マクリ大統領の中道右派政党「共和国提案」と急進党、市民連合を中心とする政党連合「カンビエモス」の凝集性が不安視されたのである。

しかし、カンビエモスはこれらの悲観論を一掃し、2017年10月に行われた中間選挙で勝利を収めることに成功した。それでは、カンビエモスはなぜ議席数を伸ばすことができたのであろうか。以下では、2017年中間選挙の結果の確認、および、市民のマクリ政権に対する評価とアルゼンチンにおける政党政治の変化について検討することにより、この問いについて考察してみたい。

2017年中間選挙の結果

23の州と首都ブエノスアイレス市から成る連邦制国家のアルゼンチンでは、上院選のみならず下院選でも州が選挙区となっている。上院議員の任期は6年で、2年ごとに3分の1（8つの州）の議員が改選対象となる。そして、各選挙区（州）の定数は3名で、最多得票の政党・選挙連合の候補者リストから2名、その次に得票の多かった政党・選挙連合の候補者リストから1名選出される。一方、下院議員の任期は4年で、2年ごとに半数改選される。各選挙区の定数は5名（ティエラデルフエゴ州など10州）から70名（ブエノスアイレス州）であり、拘束名簿式比例代表制が採用されている。なお、通常10月に行われる本選挙に加え、2011年の選挙から予備選挙の実施が義務化されている[2]。

表1：2017年中間選挙結果

	選挙前	改選議席数	獲得議席数	選挙後
下院				
カンビエモス	86	40	61	107
勝利のための戦線	77	35	25	67
正義党（キルチネル派以外）	34	16	22	40
新アルゼンチン連合	37	20	4	21
その他	23	16	15	22
上院				
カンビエモス	15	3	12	24
勝利のための戦線	18	10	5	10
正義党（キルチネル派以外）	26	8	2	23
新アルゼンチン連合	1	1	0	0
その他	12	2	5	15

（出所）*La Nación* 紙 のHP（www.lanacion.com.ar）のデータを基に執筆者作成

表1は、10月22日に実施された下院選（127議席改選）と上院選（24議席改選）の結果を示したものである。アルゼンチンでは大統領の任期が4年であるため、大統領選とは重複しない年に実施される下院選と上院選も「中間選挙」として重視されているが、2017年中間選挙の勝者は明らかに与党連合のカンビエモスであった。何れも過半数には届かなかったものの、下院では127の改選議席の48%に当たる61議席を獲得し、「第一党」の座を揺るぎないものにした。さらに、元来正義党の牙城である上院においても12議席を獲得し、最大勢力に躍り出たのである[3]。

他方、正義党のクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル前大統領（以下、クリスティーナ）率いる「勝利のための戦線」は、下院で10議席、上院で8議席を失った。後述するように、クリスティーナはブエノスアイレス州選挙区からの上院選出馬に際して自身の政権で内務運輸相を務めたランダッソとの調整がつかず、「市民団結（Unidad Ciudadana）」という新たな選挙連合を結成したが、この動きは全国的な正義党キルチネル派の分裂を招

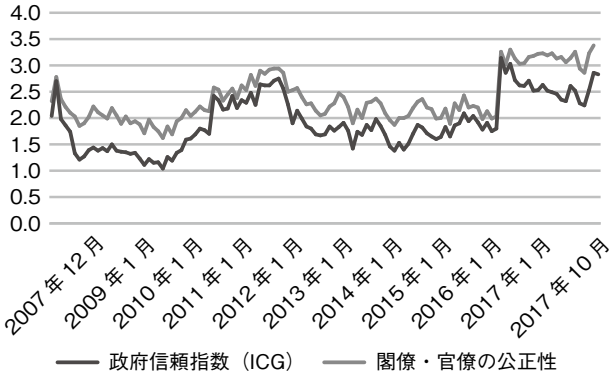
いた。そのため、正義党全体としてみれば下院での議席数に大きな変化はないものの、現在もキルチネル派として残っている勢力とそれ以外の勢力との間の亀裂は深い。

また、今回の中間選挙で最大の敗者となったのは、マッサ下院議員率いる「新アルゼンチン連合（Unidos por una Nueva Argentina）」であった。今回の選挙では選挙連合「国を一つに（1 País）」を結成し、2013 年の中間選挙では「刷新戦線（Frente Renovador）」としてブエノスアイレス州選挙区で 16 の下院議席を獲得するなどの大躍進を遂げていた同連合であるが、今回の中間選挙では「反クリスティーナ票」を全国でカンビエモスに奪われ、下院で 16 議席を失った。

市民のマクリ政権への評価

それでは、なぜカンビエモスは 2017 年の中間選挙で勝利を収めることができたのであろうか。第一の理由として考えられるのが、市民のマクリ政権に対する評価の高さである。コンサルティング会社ポリアルキア（Poliarquía）によれば、2017 年 9 月時点での政権支持率は 52% であり、就任から丁度 2 年経った同年 12 月でも 47% を記録している（*La Nación,* 24 de septiembre de 2017; 9 de diciembre de 2017）。ただし、9 月の調査で回答者の 53% が「（政府は）国の抱える問題の解決策が分かっているが、時間が必要」を選択していることからも推測されるように、中間選挙後の政権運営への期待感からの高評価となっている。実際、マクリが 2015 年の大統領選でのテレビ討論会で掲げた 20 の公約のうち、2017 年 12 月現在既に実現されているものは 2 つにすぎず、特に雇用などは厳しい状況にある（*La Nación,* 11 de diciembre de 2017）。

図：アルゼンチンにおける市民の政府に対する評価



（出所）トルクアト・ディ・テラ大学の HP（www.utdt.edu）のデータを基に執筆者作成

公約の実現が進んでいないのにもかかわらず、マクリ政権に対する評価が高い背景には、同政権下における汚職の少なさに対する評価の高さがあると考えられる。図 1 はクリスティーナ政権（2007 ～ 15 年）下とマクリ政権（2015 ～）下での「政府信頼指数（Índice de Confianza en el Gobierno）」の変化を示している。同指数は、800 ～ 1,200 の主に都市部の住民を対象に、「政府に対する全体的な評価」「政府による特定のセクターの優遇」「公共支出における効率性」「閣僚・官僚の公正性」「政府の問題解決能力」という 5 側面に関する電話による世論調査を行い、その回答を集計して 0 ～ 5 までの値を取るよう数値化したものである。この指数の経年変化をみてみると、政府のパフォーマンスに対する市民の評価がマクリ政権下で高まっていることが分かる。なかでも、汚職の少なさに対する評価がそのけん引役となっており、「閣僚・官僚の公正性」の平均値はクリスティーナ政権下では 2.21 であったのに対し、マクリ政権下では 3.11 にまで上昇している。よって、市民の目から見た汚職の減少が、中間選挙後の政権運営への期待につながり、中間選挙でのカンビエモスの得票の増加に貢献したと推測できよう。

政党政治の変化

次に、第二の理由として、カンビエモスの「全国政党化」を指摘できる。マクリ大統領の共和国提案は元々ブエノスアイレス市とブエノスアイレス州のみを地盤とする小政党であり、地方での展開はサンタフェ州などに限られていたが、2015 年の大統領選ではコルドバ州やメンドーサ州などでも強い急進党をカンビエモスに引き入れ、支持基盤を拡大することに成功した（菊池 2016）。ただし、州レベルの政治に注目すると、カンビエモスが州知事ポストをおさえているのはブエノスアイレス州、ブエノスアイレス市、コリエンテス州、フフイ州、メンドーサ州の 5 つにすぎない。

アルゼンチンでは州知事が下院議員・上院議員候補選出過程におけるキーパーソンであり、地方政治が下院選に影響を与えると考えられている（Jones 1997）。よって、州知事ポストが 5 つしかないカンビエモスにとって 2017 年の下院選は厳しいものとなることが予想されたが、表 2 に示されているように、

表2：各選挙区の最多得票政党・選挙連合（下院選）

ブエノスアイレス州	カンビエモス
ブエノスアイレス市	カンビエモス
カタマルカ州	正義党
コルドバ州	**カンビエモス**
コリエンテス州	カンビエモス
チャコ州	**カンビエモス**
チュブト州	正義党
エントレリオス州	**カンビエモス**
フォルモサ州	正義党（統一リスト）
フフイ州	カンビエモス
ラパンパ州	正義党（統一リスト）
ラリオハ州	**カンビエモス**
メンドーサ州	カンビエモス
ミシオネス州	社会協調のための刷新戦線
ネウケン州	**カンビエモス**
リオネグロ州	勝利のための戦線（統一リスト）
サルタ州	**カンビエモス**
サンフアン州	正義党（統一リスト）
サンルイス州	正義党（統一リスト）
サンタクルス州	**カンビエモス**
サンタフェ州	**カンビエモス**
サンティアゴデルエステロ州	サンティアゴ市民戦線
トゥクマン州	正義党（統一リスト）
ティエラデルフエゴ州	勝利のための戦線

（注）太字は、州知事の属する政党・選挙連合と異なることを示す。
（出所）*La Nación* 紙 の HP（www.lanacion.com.ar）のデータを基に執筆者作成

実際には13の州で勝利を収めた。今回の中間選挙で、マクリ大統領は選挙キャンペーンの「全国統一化」を行い、地方政治の影響を極力排除しようとしたが（*La Nación*, 17 de agosto de 2017）、その試みは州知事ポストをおさえていない8つの州における勝利というカンビエモスの「全国政党化」として結実した。特に、メネム元大統領を輩出したラリオハ州やキルチネル元大統領を輩出したサンタクルス州における勝利は特筆に値する。

最後に、第三の理由として、正義党キルチネル派の分裂が挙げられよう。先述したように、クリスティーナはブエノスアイレス州選挙区から上院選に出馬したが、ランダッソと予備選で争うことを嫌い、正義党とは別に「市民団結」という選挙連合を新たに結成した。2003年以降正義党はキルチネル派の「勝利のための戦線」をはじめとするいくつかの勢力に分裂し、政党規律は著しく低下しているが、それでもキルチネル政権（2003～07年）下とクリスティーナ政権下ではキルチネル派が他を圧倒していた。しかし、今回の市民団結の結成は、政権交代以降一部の州知事を中心に始まっていた「クリスティーナ離れ」の動きを加速させ、下院選においては10の州で複数の正義党系の候補者リストが存在する事態となった。その結果、統一リストを作成することのできなかった州の多くで、正義党は敗北したのである（表2参照）。

表3：2017年上院選・下院選本選挙結果（ブエノスアイレス州選挙区）

政党・選挙連合	上院選（%）	下院選（%）
カンビエモス	41.38	42.18
市民団結	37.25	36.25
国を一つに	11.32	11.03
正義党戦線	5.31	5.21
左派及び労働者戦線	4.75	5.33

（注）上院選（%）・下院選（%）は有効票の合計に占める各政党・選挙連合の得票の割合。
（出所）国家選挙局（Dirección Nacional Electoral）の HP（www.resultados.gob.ar）のデータを基に執筆者作成

キルチネル派の分裂の負の影響は、全有権者の37%が居住するブエノスアイレス州選挙区で顕著に観察された。表3は同選挙区での選挙結果を示したものである。上院選ではカンビエモスが2議席、市民団結が1議席を獲得したが、仮にクリスティーナの市民団結とランダッソの「正義党戦線（Frente Justicialista）」が統一リストを作成していれば合計で42.56%となり、正義党が2議席を獲得できた可能性が高かったのである。また、国内最大の選挙区であることから、2年後の大統領選の結果との相関が高いとされている下院選についても、カンビエモスとの僅差となった可能性があると考えられる。

むすび

カンビエモスはなぜ2017年10月に行われた中間選挙で勝利を収めることができたのであろうか。本稿では、この問いについて考察すべく、選挙結果を確認したうえで、市民のマクリ政権に対する評価とアルゼンチンにおける政党政治の変化を検討した。そして、カンビエモスが議席を伸ばした理由として、市民の目から見た汚職の減少に基づく中間選挙後の政権運営への期待の高さ、マクリ大統領の地方政治の影響を極力排除した選挙キャンペーンの展開によるカンビエモスの「全国政党化」の成功、正義党キルチネル派の分裂が挙げられることを指摘した。

先述したように、中間選挙における下院選ブエノスアイレス州選挙区での選挙結果は一般に2年後の大統領選の結果との相関が高いとされている。しかしその一方で、2009年の下院選で敗北した勝利のための戦線を率いるクリスティーナが2011年の大統領

選で再選されたように、例外的な現象が起きることもある。本稿の指摘した3点に注目しつつ、今後のアルゼンチン政治の展開を追っていくことが、2019年大統領選の分析に向けた課題となろう。

（きくち ひろかず　日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ 副主任研究員）

参考文献

菊池啓一（2016）「2015年アルゼンチン大統領選挙―なぜ与党連合は負けたのか―」『ラテンアメリカ・レポート』33（1） 14-27。

Jones, Mark P. 1997. “Federalism and the Number of Parties in Argentine Congressional Elections.” *The Journal of Politics*, 59（2）: 538-49.

（新聞）La Nación紙

1　2003年の大統領選挙では、最も多くの有効票を獲得していた（24.45%）メネム元大統領が決選投票を辞退したため、次点（22.25%）のキルチネルが自動的に当選した。また、2015年の大統領選挙の詳細については菊池（2016）を参照されたい。

2　各政党・選挙連合には、8月に実施される予備選挙に単独もしくは複数の候補者リストを提出する義務があり、有権者にも本選挙と同様にその中から1つのリストを選んで投票する義務がある（16～17歳と71歳以上の有権者には投票義務はない）。また、複数の候補者リストが存在した政党・選挙連合については、上院選の場合はその中で最多得票のリストのみが本選挙に進み、下院選の場合も最多得票のリストを中心とした候補者リストが本選挙で使用される。他方、政党・選挙連合が候補者リストを一つしか提出しなかった場合でも、本選挙への候補者擁立には有効票と白票の合計の1.5%以上の得票が必要である。

3　その後2017年12月に、上院の正義党系の会派は25名が所属する「アルゼンチン連邦（Argentina Federal）」とクリスティーナを含む8名が所属する「勝利のための戦線―正義党（Frente para la Victoria-Partido Justicialista）」とに別れたため、カンビエモスは「第二党」になっている（La Nación, 7 de diciembre de 2017）。他方、カンビエモスに所属する下院議員数は、2017年12月現在108名となっている。

ラテンアメリカ参考図書案内

『スペイン語で親しむ　石川啄木　一握の砂　UN PUÑADO DE ARENA Ishikawa Takuboku』

伊藤昌輝　編訳　エレナ・ガジェゴ監修・CD 朗読　大盛堂書房
2017 年 11 月　256 頁　1,900 円＋税　ISBN978-4-88463-121-5

明治の青春の記念碑として日本人の間に永く親しまれてきた啄木文学。「東海の小島の磯の」や「たはむれに母を背負ひて」など、石川啄木の歌をいくつか諳んじられる人は少なくない。啄木の歌は現代でも生きており、そのなかでも最も魅力あるのは『一握の砂』であろう。ドナルド・キーン氏は、「日本近代文学を通読すると、私は啄木が最初の現代人であったというような気がしてならない」と述べている。また啄木自身は、「一生に二度とは帰ってこないいのちの一秒だ。おれはその一秒がいとしい。ただ逃してやりたくない…、おれはいのちを愛するから歌を作る。おれ自身が何より可愛いから歌を作る。」と述べている。

本書は『一握の砂』551 首全首を掲載、左ページにスペイン語、右ページに日本語を配置し、両言語で味わえるようになっている。啄木自身の自筆ノートを資料として多く掲載しており、日本の近代文学の研究書としても価値があろう。さらにスペイン人による朗読 CD 付の画期的な 1 冊である。

〔伊藤　昌輝・訳者〕